999216039 ja

今後の参考のために保管願います。

シフティング トロリー DF

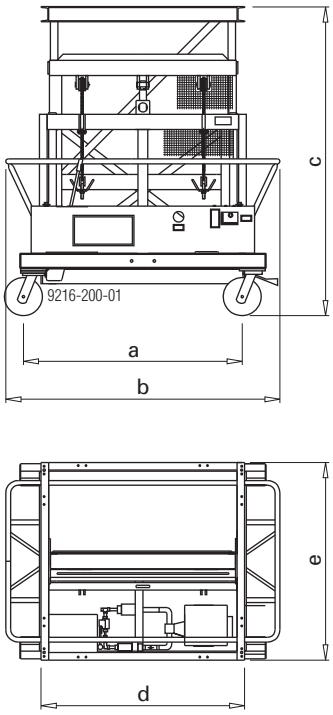
商品番号 586080000

1995 モデル以降

doka
The Formwork Experts

製品の基本図面

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF
商品番号 586080000



a ... 1,440 mm
b ... 1,804 mm
c ... 1,540 mm ～ 3,030 mm
d ... 1,340 mm
e ... 1,300 mm

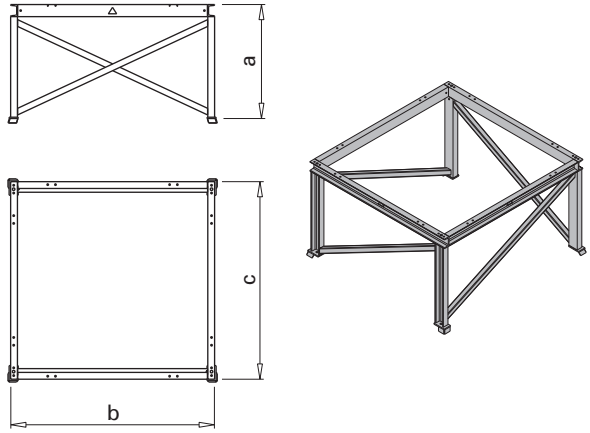
銘板上のデータ

Doka Industrie, A-3300 Amstetten
名称： ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF
商品番号 586080000
固定重量： 566.0 kg
最大許容荷重： 1,500 kg
製造年： 銘板参照

CE

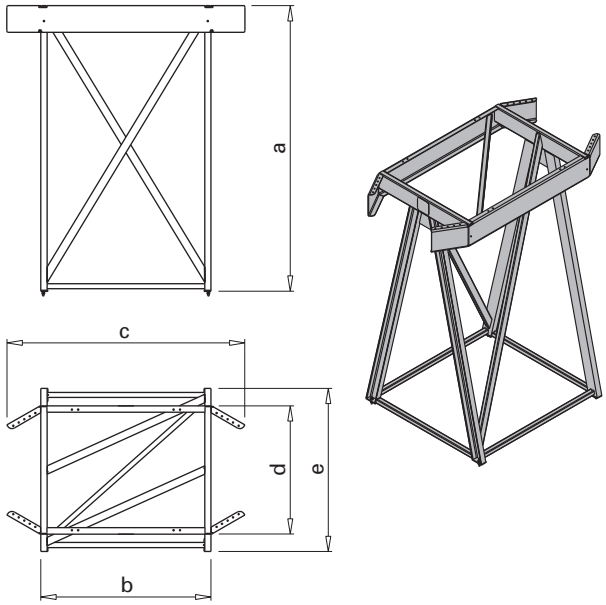
ｱｸｾｻﾘ

かさ上げﾌﾚｰﾑ DF
商品番号 586079000



a ... 750 mm
b ... 1,340 mm
c ... 1,300 mm
重量 82 kg

アルミ かさ上げフレーム DM 2.25m
商品番号° 586238000



a ... 2,250 mm
b ... 1,340 mm
c ... 1,873 mm
d ... 1,010 mm
e ... 1,285 mm
重量 59.2 kg

指定された目的に限り使用する：

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF およびかさ上げﾌﾚｰﾑは Dokaflex と Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙの上昇や再設置にのみ使用します。

- ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰDF およびかさ上げﾌﾚｰﾑをご使用になる前には、正しく組み立てられているかを資格保有者が確認して下さい。
- 当製品を意図された目的以外の何事にも一切使用してはなりません。
- Doka は、改変された製品に対しては責任を負いかねます。
- 修理は、メーカーだけが実施できます。
- 上昇用ｱｸｾｻﾘは気候や腐食性物質から保護された、通気の良い乾燥した場所に保管して下さい。
- 荷重保持用機材は年に１度、専門家による検査を行って下さい。

毎回、使用の直前に

➤ 損傷の形跡や、あるいは目に見える変形がないかどうか、チェックしてください。

変形および損傷した部材は専門家によってただちに取り替えて下さい。安全のため、純正 OEM のスペアのみを使用して下さい。

- 溶接に亀裂や切り込みがない
- 変形がない。
- 銘板がはっきりと見える様に配置してください

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の納品時

輸送中の損傷

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF は全面的な検査および試験後に製造工場から発送されます。輸送中の損傷はないか確認するため、ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 納品時はただちに全面的な検査を行って下さい。損傷のある場合は書面により送り主に報告して下さい。該当の欠陥が処理されるまでは、ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF を使用しないで下さい。

保証条件

当機材への過積載やその他の不適切な使用があった場合、保証は無効となります。

作業員による取り扱い説明書および必要なガイドラインの把握

操作許可

使用方法に関する十分な指導を受けた方、また必要な全ての操作マニュアルと規則を熟知した方のみが当機材の操作を許可されます。
担当者の操作および取り扱い能力を証明するものを必ず確認して下さい。

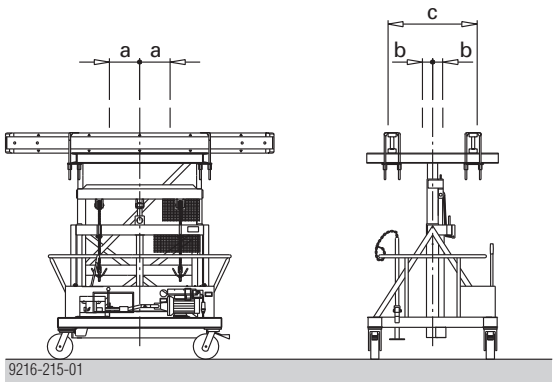
ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF をﾃｰﾌﾞﾙ型枠下に設置

全般的説明

テーブルのサイズや現場の状況次第で、シフティングトロリー DF をテーブルの片方の端部か又は片方の側面からテーブルの下へ押し入れます。

最大荷重での過重中心における最大偏心幅: a= 最大 300 mm, b= 最大 100 mm.

ﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰｼｮﾝﾋﾞｰﾑ H20 搭載ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰのみ



c ... 最大 900 mm

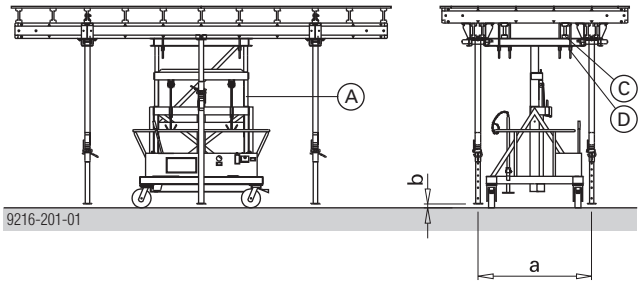
指示：

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 、およびかさ上げﾌﾚｰﾑ DF の ｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑには中央にﾏｰｸ（赤矢印）があり、ﾃｰﾌﾞﾙの下で簡単に中央に合わせて設置できます。「中央位置」は重心が中央にあるという事です。左右非対称のﾃｰﾌﾞﾙ（ｴｯｼﾞﾃｰﾌﾞﾙ、留め型枠付きﾃｰﾌﾞﾙ）には十分注意して下さい。

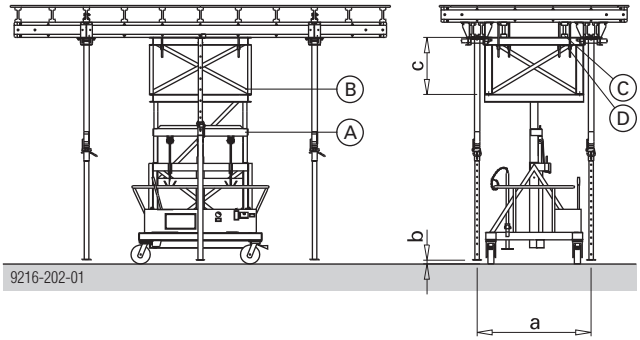
注意

➤ ﾌﾛｱﾌﾟﾛｯﾌﾟの固定用ｸﾗﾝﾌﾟは必ず内側から外側へと挿入して下さい。さもなければ、ﾃｰﾌﾞﾙの下でｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰを操作する際、邪魔になります。

かさ上げﾌﾚｰﾑ不使用



かさ上げﾌﾚｰﾑ使用



a ... 1450 又は 1500 mm
b ... 最大． 50 mm
c ... 750 mm

A シフティングトロリー DF
B かさ上げフレーム DF
C ディストリビューションビーム（Doka ビーム H20 2.65m）
D ブレースクランプ 8

ｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑまたはかさ上げﾌﾚｰﾑ DF へのﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰｼｮﾝﾋﾞｰﾑ（Doka ﾋﾞｰﾑ H20 2.65m）の固定方法：

- ﾌﾞﾚｰｽｸﾗﾝﾌﾟを 8 つ使用して段差なしに（4 つは製品に付属）
- ﾊﾟｯｷﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄと六角ﾎﾞﾙﾄ M8x60 を使用
  （ｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑにはﾎﾞﾙﾄ穴が開けてあります）

Dokaflex および Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙには必ず長さ 2.65m 以上のﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰｼｮﾝﾋﾞｰﾑ H20 を使用して下さい

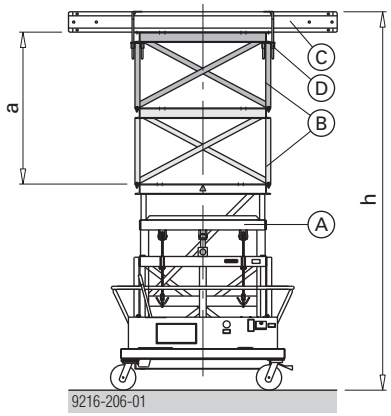
例外： Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙﾌﾚｰﾑ 1.50m 使用の場合。

位置決め後

まずﾄﾛﾘｰを出したい方向にｽｲﾍﾞﾙｷｬｽﾀｰの向きを調整し、それからﾃｰﾌﾞﾙを上昇させて下さい。

組立ておよび高さ

かさ上げﾌﾚｰﾑ DF を使用する場合、必ずかさ上げﾌﾚｰﾑに付属している六角ﾎﾞﾙﾄ M 12x40 を 4 つ使用してﾌﾚｰﾑ同士を固定して下さい



a ... 最小 750mm から最大 2250 mm まで

A シフティングトロリー DF
B かさ上げフレーム DF
C ディストリビューションビーム（Doka ビーム H20 2.65m）
D ブレースクランプ 8

高さの範囲には、ディストリビューションビームが含まれています。

かさ上げフレーム DF の数	最小高さ [cm]	最大高さ [cm]
0	174.0	323.0
1	249.0	398.0
2	324.0	473.0
3	399.0	548.0

荷重が中心にかかっている場合で、かさ上げフレーム DF の有無に基づくシフティングトロリー DF ごとの最大荷重：

- かさ上げフレーム DF、無し 1,500 kg
- かさ上げフレーム DF、1 台有り： 1,418 kg
- かさ上げフレーム DF、2 台有り 1,336 kg
- かさ上げフレーム DF、3 台有り 1,254 kg

アルミ かさ上げフレーム DM 2.25m 数	最小高さ [cm]	最大高さ [cm]
1	399.0	548.0

荷重が中心にかかっている場合で、アルミ かさ上げフレーム DM 2.25m を 1 台使用したシフティングトロリー DF1 台当たりの最大荷重 ： 1,440 kg

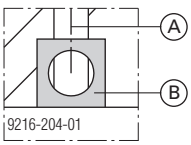
非対称テーブルに関する注意点：
「中心配置」とは、荷重の「中心」配置を意味します。
非対称テーブル（エッジテーブル、ストップエンド付きテーブル）の場合は特に注意してください。

方向転換

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF には直径 250mm の頑丈なｽｲﾍﾞﾙｷｬｽﾀｰが 4 つ付いており、うち 2 つには調整用ﾌﾞﾚｰｷが付いています。

重量支保工を移動する際の注意点：

- Dokaflex および Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙには必ずｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF を使用して下さい。
- ﾌﾟﾛｯﾌﾟの最大地上高は 5 cm です。
- ﾃｰﾌﾞﾙから油圧装置が 5cm 以上突き出ている場合は方向転換しないで下さい。
- 傾度が 5% 以内の場合のみ走行可能です：
  - 傾度 3% 以下での最大許容荷重は 15kN です
  - 傾度 5% 以下での最大許容荷重は 9kN です。
- 床は安定し、硬く、しかも十分に滑らかでなければなりません（コンクリート等）。
- **以下については、特に注意が必要です：**
  - 段差
  - 階段
  - 開口部
  - 強風
- 走行経路に障害物等がないようにして下さい。
- 床の開口部は、横ずれしないようしっかりと固定された十分な強度の厚板か板で橋渡しをするか、十分な強度のｻｲﾄﾞﾚｰﾙで封鎖して下さい！
- 「乗客の輸送」は、禁じられています。
- 1 台のｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF で運ぶﾃｰﾌﾞﾙは最長 5 m とし、それ以上の場合は必ず 2 台使用して下さい。
- 走行操作には他の機械的補助は使用しないで下さい！ **例外**：ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ DF
- 最高速度は 4 km/h（歩行速度）
- ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の作業時間が空く場合、または完全に駐車しておく場合はどんな型枠でも載せたままにしないで下さい。
- 次の位置にｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF を移動させた際は、誤って動かないように固定して下さい（固定用ﾌﾞﾚｰｷをかける、車輪止めを挟み込む等）。
- 電気ｹｰﾌﾞﾙ類が付いた状態でのｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の移動は禁じられています。
- ｸﾚｰﾝの輸送は必ず専用のﾘﾌﾃｨﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄ（赤印付き）を使用して行って下さい。



A ｸﾚｰﾝｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝﾀｯｸﾙ（1 部）
B ﾘﾌﾃｨﾝｸﾞﾌﾞﾗｹｯﾄ

「ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ DF」の使用案内にある指示に従って下さい！

テーブル型枠を降ろし配置を終了した後に

➤ ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰDF の**方向転換** / **走行**後は必ず以下を確認して下さい：

- ﾌﾛｱﾌﾟﾛｯﾌﾟの固定用ｸﾗﾝﾌﾟが正しい位置にある事
- ﾌﾛｱﾌﾟﾛｯﾌﾟがDokamaticｽｲﾍﾞﾙﾍｯﾄﾞにｸﾗﾝﾌﾟでしっかり固定されている事。

上昇と下降（荷重あり・荷重なし）

油圧式の上昇と下降には 2 通りあります：

- 手動ﾎﾟﾝﾌﾟ
- 電気式昇降ﾓｰﾀｰ

上昇させる前は位置が正確か確認して下さい。

手動による上昇

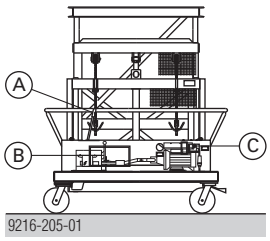
- ﾎﾟﾝﾌﾟのﾚﾊﾞｰを上下に動かします
  - 上昇速度： 上下 1 往復毎に 1cm
  - 最高上昇高さ： 150.0 cm
  - 内蔵の圧力制限弁により過荷重を防止します。

ﾓｰﾀｰによる上昇

- 始動ﾎﾞﾀﾝを押します
  - 接続電源： 220 V/50 Hz
  - 上昇速度： 1 m/ 分
  - 最高上昇高さ： 150.0 cm
  - 内蔵の圧力制限弁により過荷重を防止します。

下降

- 下降弁を開きます
  - 弁で下降速度を調整します



A ﾎﾟﾝﾌﾟﾚﾊﾞｰ
B 下降弁
C 押ﾎﾞﾀﾝ

並びと高さ調節

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF で、Dokaflex および Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙを正確に配置し、並びと高さを合わせる事ができます。

ﾄﾛﾘｰに付属のﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞﾚﾊﾞｰにより、移動方向に向けて正確にｽｲﾍﾞﾙｷｬｽﾀｰを調整できます。

➤ ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞﾚﾊﾞｰを基礎ﾌﾚｰﾑにしっかりと奥まで差し込みます。

➤ ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞﾚﾊﾞｰを押し下げます。
これにより車輪がわずかに地面から浮き、簡単に向きを調整できます。

➤ 4 つ全ての車輪についてこの手順を繰り返します。

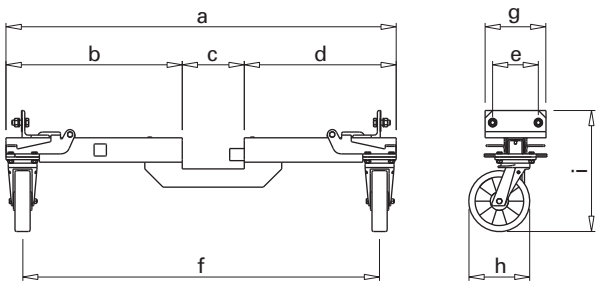
➤ そしてﾃｰﾌﾞﾙを所定の位置へと輸送して下さい。

➤ 希望の高さまでﾃｰﾌﾞﾙを上昇させ、それに合わせてﾌﾛｱﾌﾟﾛｯﾌﾟを微調整して下さい。

テーブルフレームを使用するテーブル型枠に関する特別な注意点

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ

製品の基本図面



商品番号 5860150000
a ... 1,284 mm
b ... 580 mm
c ... 204 mm
d ... 500 mm
e ... 150 mm
f ... 1,174 mm ～ 1,866 mm
g ... 253 mm
h ... 200 mm
i ... 398 mm

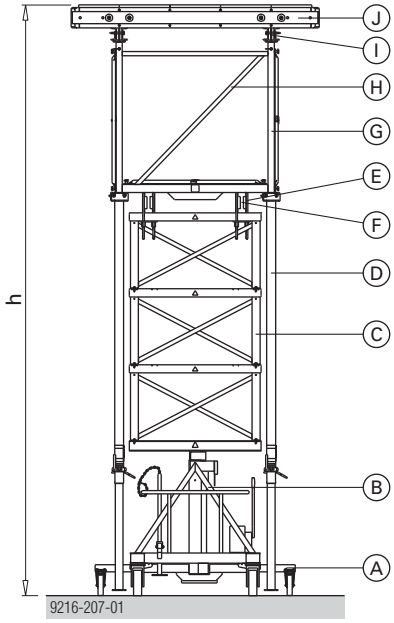
指定された目的に限り使用する：

Dokaflex および、Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙﾌﾚｰﾑ 1.50m を使用し 5.80 から 7.30m までの高さでの Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙの安全な方向転換にはｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF と併せて「ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」が必要です。

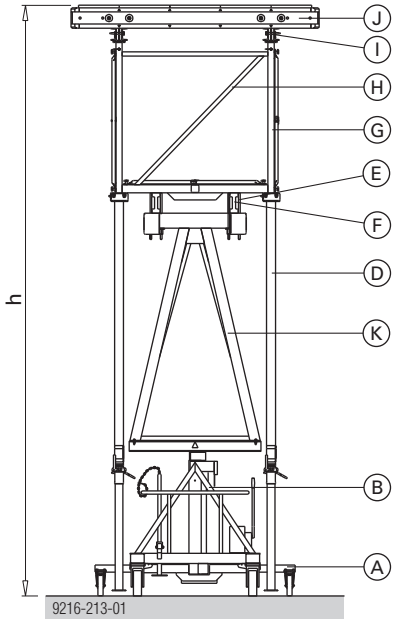
- ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰDFおよびかさ上げﾌﾚｰﾑをご使用になる前には、正しく組み立てられているかを資格保有者が確認して下さい。
- 当製品を意図された目的以外の何事にも一切使用してはなりません。
- Doka は、改変された製品に対しては責任を負いかねます。
- 修理は、メーカーだけが実施できます。

実用例

かさ上げﾌﾚｰﾑ DF 使用の場合



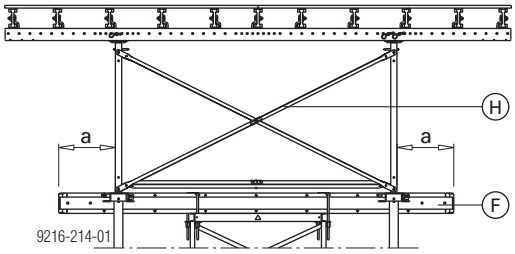
ｱﾙﾐかさ上げﾌﾚｰﾑ DM 2.25m 使用の場合



h ... 5.80 m ～最大 7.30 m

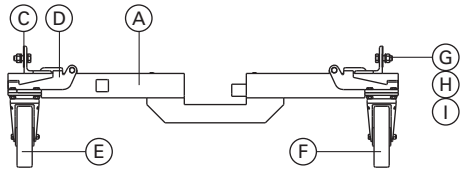
A	ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ
B	ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF
C	かさ上げﾌﾚｰﾑ DF
D	ﾌﾛｱ ﾌﾟﾛｯﾌﾟ Eurex 20,550
E	ﾌﾞﾚｰｽｸﾗﾝﾌﾟ 8
F	Doka ﾋﾞｰﾑ H20 （ﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰｼｮﾝﾋﾞｰﾑ）
G	Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙﾌﾚｰﾑ 1.50m
H	筋交いｸﾛｽ 18,250
I	単管ｺﾈｸｼｮﾝ
J	Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙ 2.50x5.00m
K	ｱﾙﾐ かさ上げﾌﾚｰﾑ DM 2.25m

⚠ ➤ Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙﾌﾚｰﾑ 1.50m を使用する際は H20 ﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰｼｮﾝﾋﾞｰﾑが十分な長さである事を確認して下さい。



a ... 最小 500 mm

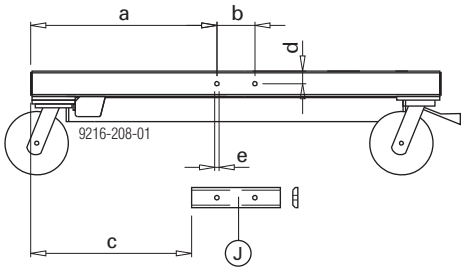
ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝの装着



A	ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ
B	ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF
C	ﾃﾞｨｽﾀﾝｽﾌﾟﾚｰﾄ
D	ｾｰﾌﾃｨｰｸﾘｯﾌﾟ
E	ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ 1
F	ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ 2 短い方
G	六角ﾎﾞﾙﾄ M16x45
H	六角ﾅｯﾄ M16
I	ﾜｯｼｬｰ 17
K	ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ

➤ ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF が誤って動かないように固定して下さい（ﾌﾞﾚｰｷをかける、車輪止めを挟み込む等）。

「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」装着用の穴がｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF に開けられていない場合は、ﾄﾞﾘﾙﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ **(J)** および直径 17 のｽﾁｰﾙﾄﾞﾘﾙﾋﾞｯﾄを使用して穴を開けて下さい。

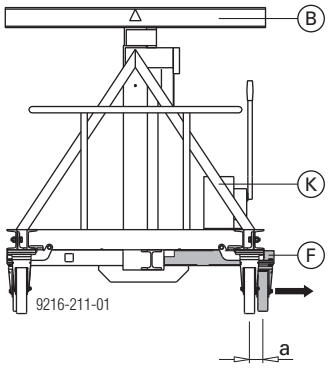


a ... 735 mm
b ... 150 mm
c ... 635 mm
d ... 50 mm
e ... ø17.0 mm

➤「ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF 用ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」**(A)** をｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の下に押し入れます。

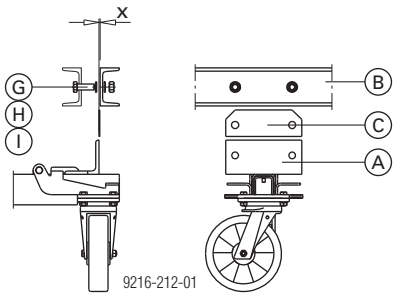
➤ 短い「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」**(F)** を最低 50 mm 伸ばします。

➤ 短い「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」**(F)** はﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ **(K)** と同じ側に来ます。



a ... 50 mm

➤ 六角ﾎﾞﾙﾄ M16x45 **(G)** 、六角ﾅｯﾄ M16 **(H)** とﾜｯｼｬｰ 17 **(I)** で固定します。



x ... 遊び
ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の Uﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ **(B)** と「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」**(A)** の間に遊び部分が大きすぎる場合は、ﾃﾞｨｽﾀﾝｽﾌﾟﾚｰﾄ **(C)** もねじ留めして下さい。

4 つ全てのねじをしっかり締めて下さい。

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF をﾃｰﾌﾞﾙ型枠または Dokamatic ﾃｰﾌﾞﾙの下に配置

注意

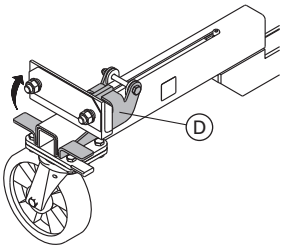
➤ ﾌﾛｱﾌﾟﾛｯﾌﾟの固定用ｸﾗﾝﾌﾟは必ず内側から外側へと挿入して下さい。さもなければ、ﾃｰﾌﾞﾙの下でｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰを操作する際、邪魔になります。

➤「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」をｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF に装着し、両方のｴｸｽﾃﾝｼｮﾝを格納して下さい（押し込んで下さい）。

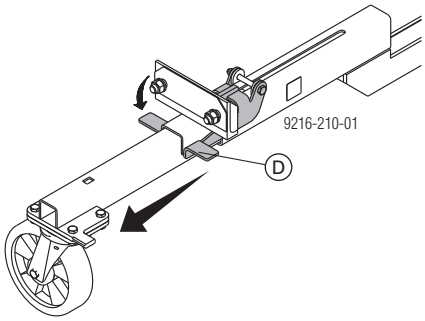
➤ ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰDF をDokaflex またはDokamaticﾃｰﾌﾞﾙの下に移動して配置します。

「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」を伸ばす

➤ ｾｰﾌﾃｨｰｸﾘｯﾌﾟ (D) を上げます。



➤ 車輪を限界まで引き出します。
ｾｰﾌﾃｨｰｸﾘｯﾌﾟが所定の位置にはまります。



「ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ」の格納

➤ ｾｰﾌﾃｨｰｸﾘｯﾌﾟ (D) を上げます。

➤ 車輪を奥まで完全に押し込みます。
ｾｰﾌﾃｨｰｸﾘｯﾌﾟが所定の位置にはまります。

油圧ｼｽﾃﾑ：諸注意

ｶﾞｽ抜き

ｵｲﾙ交換や修理を行った後はｼﾘﾝﾀﾞｰにあるﾌﾞﾘｰﾀﾞｰねじからｼｽﾃﾑ全体のｶﾞｽ抜きが可能です。

安全対策

型により、圧力制御弁の最高圧力はあらかじめ200ﾊﾞｰﾙ（灰色の油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰ）または250ﾊﾞｰﾙ（青色の油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰ）に設定されています。

圧力制御弁の調節ねじには分かりやすい印が付いています。この弁の改造等は行わないで下さい。

遮断弁は油圧ﾎｰｽと油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰの間に据付けられ、流量を20 ℓ/minに設定してあります。この流量は変えないで下さい。

メンテナンス

1年に1度、油圧ｵｲﾙの交換をして下さい。

低温油圧ｵｲﾙ： Aero Shell Fluid 4またはそれと同等のｵｲﾙ

油圧ｵｲﾙの注入量： 6 ℓ.

注意

油圧ｵｲﾙは環境に有害です！

➤ ｵｲﾙ漏れ等には直ちに適切な処置をおこなって下さい！

➤ 漏れ出した油圧ｵｲﾙは回収し、適用規制等に従い処理して下さい！

ﾓｰﾀｰの取り替え

新しい上昇用ﾓｰﾀｰの据付け

上昇用ﾓｰﾀｰは2つの六角ﾎﾞﾙﾄM8x30と六角ﾅｯﾄM8でｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DFに固定します。上昇用ﾓｰﾀｰからのﾎｰｽを、ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DFの油圧ﾗｲﾝにつなげます。

上昇用ﾓｰﾀｰの使用

新しい上昇用ﾓｰﾀｰ据付け後に油圧ｼｽﾃﾑへの空気の進入を防ぐため、以下の手順に従って下さい：

- 手動ﾎﾟﾝﾌﾟのﾚﾊﾞｰを使ってｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑを最大限に伸ばします
- ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DFの手動下降弁を作動させます。After ｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑが5cm下がったら押ﾎﾞﾀﾝ を押して電機ﾓｰﾀｰを始動します。
- 30秒後に手動下降弁を開放します。これで電気ﾓｰﾀｰが完全に機能します。

ﾒﾝﾃﾅﾝｽ（諸備考）

ｹﾚﾝおよびﾒﾝﾃﾅﾝｽ

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DFが汚れた場合は、特に以下に注意してｹﾚﾝして下さい：

- 油圧ｼｽﾃﾑ
- ｶﾞｲﾄﾞ機構の可動部位
- ｻﾎﾟｰﾃｨﾝｸﾞﾌﾚｰﾑの荷重負荷面
- ｽｲﾍﾞﾙｷｬｽﾀｰ

新たな現場で始動する前に

- 以下のｸﾞﾘｰｽﾆｯﾌﾟﾙから潤滑油を注入してください。
  - ｶﾞｲﾄﾞ機構の内側と外側に各2個ずつ
  - ｽｲﾍﾞﾙｷｬｽﾀｰ上（ころ軸受およびﾘﾌﾞﾘﾝｸﾞ）
- ﾛｰﾄﾞﾁｪｰﾝおよび偏向ﾌﾟｰﾘｰに潤滑油を差して下さい。

1年に1度、ﾁｪｰﾝ潤滑の際にﾁｪｰﾝに変質や損傷はないか入念に確認して下さい。

トラブルシューティング

積載物が上昇しない

考えられる原因：
- 過荷重（かさ上げﾌﾚｰﾑを含めて 1500kg 以上）
- 油圧オイルのレベルが不足
- ｶﾞｲﾄﾞ機構の損傷または詰まり
- 油圧ﾎﾟﾝﾌﾟの欠陥
- 過圧弁の誤調整または欠陥
- 手動下降弁からの漏れ（例：劣化油等の原因）

積載物が完全に上昇しない

考えられる原因：
- 油圧オイルのレベルが不足

積載物が勝手に下降する

考えられる原因：
- 過荷重（かさ上げﾌﾚｰﾑを含めて 1500kg 以上）
- 油圧管が漏れている
- 過圧弁の誤調整または欠陥
- 電気式油圧ﾎﾟﾝﾌﾟの逆止弁からの漏れ
- 手動下降弁からの漏れ（例：劣化油等の原因）
- 手動ﾎﾟﾝﾌﾟの弁からの漏れ

積載物が下降しない

考えられる原因：
- 外気温が低い（油圧ｵｲﾙの粘性が高くなりすぎている）
- 流量制御弁の詰まり（例：劣化油等の原因）
- 手動下降弁の欠陥
- 遮断弁の欠陥

ガタガタと、または跳ねるように上昇する

考えられる原因：
- 油圧ﾁｭｰﾌﾞおよび / または油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰ内に空気が混入
- ｶﾞｲﾄﾞ機構の損傷または詰まり

ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ DF の油圧ﾗｲﾝ類の接続や取り外しができない（ｸｲｯｸｱｸｼｮﾝｶﾌﾟﾗ）

考えられる原因：
- ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF の油圧ｼｽﾃﾑ内が高圧になっている
- ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ DF の油圧ｼｽﾃﾑ内が高圧になっている
- ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ構成部品に付いた汚れの残留物
- ｸｲｯｸｱｸｼｮﾝｶﾌﾟﾗの欠陥

電気式油圧ﾎﾟﾝﾌﾟが機能しない

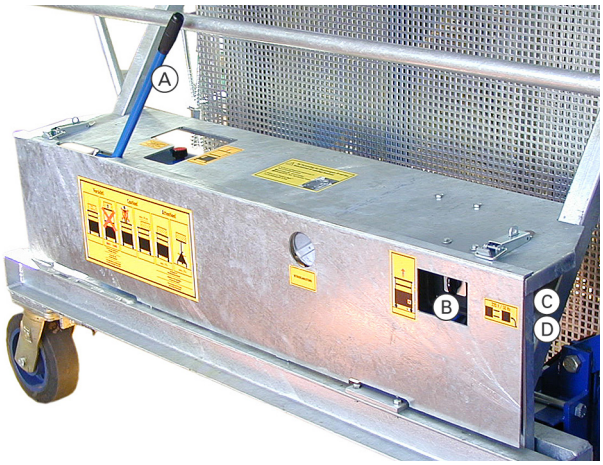
まず手動でﾎﾟﾝﾌﾟが使用できるか確認して下さい。使用できた場合は以下が考えられます

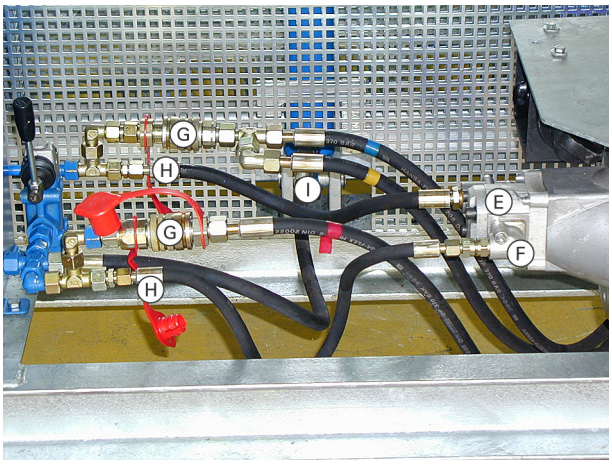
考えられる原因：
- 電源供給に問題あり
- 油圧オイルのレベルが不足
- ON ﾎﾞﾀﾝの欠陥
- 電気ﾓｰﾀｰの欠陥（例：ｺﾝﾃﾞﾝｻ等）
- 機械的な故障（ｷﾞｱﾎﾟﾝﾌﾟ、ｶﾌﾟﾗ等）
- ﾎﾟﾝﾌﾟのｼｰﾘﾝｸﾞの損傷

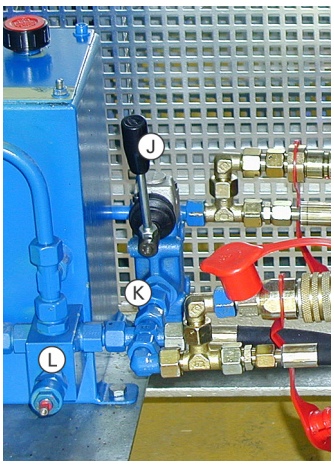
手動油圧ﾎﾟﾝﾌﾟが機能しない

考えられる原因：
- 油圧オイルのレベルが不足
- 機械的なﾄﾞﾗｲﾌﾞｼｽﾃﾑの故障（ﾚﾊﾞｰ、間接継ぎ手、ﾋﾟｽﾄﾝ等）
- ﾎﾟﾝﾌﾟｼｽﾃﾑのｼｰﾘﾝｸﾞの損傷または劣化
- 機械的な故障（ｷﾞｱﾎﾟﾝﾌﾟ、ｶﾌﾟﾗ等）
- ﾎﾟﾝﾌﾟの弁類からの漏れ

構成部品概要







A	手動ﾎﾟﾝﾌﾟﾚﾊﾞｰ
B	「上昇」ﾎﾞﾀﾝ
C	電源
D	220 V/50 Hz 電気ﾓｰﾀｰ
E	油圧ﾎﾟﾝﾌﾟ
F	逆止弁
G	ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ用ｸｲｯｸｱｸｼｮﾝｶﾌﾟﾗ
H	ｱﾀｯﾁｬﾌﾞﾙﾄﾞﾗｲﾌﾞﾕﾆｯﾄ用ｸｲｯｸｱｸｼｮﾝｶﾌﾟﾗ
I	遮断弁付きｼﾘﾝﾀﾞｰ
J	手動下降弁
K	流量制御弁
L	過圧弁

CE

EC 指令 98/37/EC に基づく

EC 指令 2006/42/EC に準拠

製造業者は、そのコンセプト及び設計を理由に、以下の製品について宣言します。

ｼﾌﾃｨﾝｸﾞﾄﾛﾘｰ DF：商品番号 586080000

適合しています - 自社販売バージョンにおいて - 該当する EC 指令に関連する「根本的健康及び安全に関する規則」に。

以下の整合規格を適用しました。

- EN ISO 12100:2010
- EN 349:1993+A1:2008

認定 技術文書編集者
（欧州機械指令付属書 II に準拠）:

Ing. Johann Peneder
Josef Umdasch Platz 1
A-3300 Amstetten

アムステッテン、2011 年 7 月 4 日	Doka Industrie GmbH Josef Umdasch Platz 1 A-3300 Amstetten

Ludwig Pekarek,
統括部長

Johann Peneder, 意思決裁者、
製品・サービス開発責任者

© by Doka Industrie GmbH, A-3300 Amstetten